

令和元年度第2回秩父市総合教育会議議事録

期 日	令和元年11月22日（金曜日）
時間・場所	15時40分～16時55分・本庁舎3階庁議室
出席者	<p>久喜市長、倉澤教育長、増田教育委員、浅見教育委員、高野教育委員、松本教育委員</p> <p>市長室長、市長室次長兼地域政策課長、市長室参与、地域政策課主幹2人</p> <p>教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長2人、教育委員会事務局専門員兼学校教育課長、教育総務課長</p> <p>傍聴者 1人</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年も残すところ1か月あまりとなった。新たな「令和」の時代が幕を開けたほか、秩父市においても、「大相撲秩父場所」開催、台風19号による土砂災害など様々な出来事があった。 ・先日は、市内の中学3年生全員が大西泰斗氏の英語講義を受講した。考え方等、大変参考になったようだ。 ・今回のテーマについて、委員の皆さんと積極的な意見交換をしたい。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のテーマである学力向上について、忌憚のない意見を頂戴したい。 <p>○松本教育委員挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月から教育委員を仰せつかっている。よろしくお願ひしたい。 <p>（傍聴者 入室）</p> <p>○議事</p> <p>（1）放課後児童対策について（報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1について学校教育課長から説明。 ・各委員から意見をいただきたい。（市長） ・寒い日に子どもたちが皆で野球をしているのを見た。放課後に皆で遊ぶ時間は大切。1人で家に帰ると、やる事がなくてゲームばかりといったことにもなる。学校のような安全な場所で遊べるのは良い。合同保育については賛成。保護者の間でも「ふれあいに入りたいね」といった話が出る。（浅見教育委員） ・合同保育について、場所や人数、時間などの内容を、あらかじめ詰めておいた方が良くと思う。校庭の利用可能時間やスペース的な問題も

あると思う。(松本教育委員)

- ・スタートしたばかりなので、これから修正を掛けていく。(久喜市長)
- ・メリット、デメリットも気になっていた。各校によってそれぞれ事情が異なる。学童とふれあいの教室が隣り合っていない学校など、詰めておくべきだと思う。(松本教育委員)
- ・今年度に出た課題を詰めていくのが良いと思う。(高野教育委員)
- ・方向性は全く賛成。料金の問題も考えないといけないと思う。登録していて利用していない方もいる。言いづらい部分もあるが、勇気をもって議論を重ねていってもらえればと思う。(増田委員)
- ・一体化に向け、料金の差(学童 4200 円/ふれあい 2,000 円)の是正が今後の課題である。(教委事務局)
- ・何で一体化しようとしているのか、認識共有しておきたい。(久喜市長)
- ・子ども・子育て支援法、昨年度の法改正による新たな5か年計画などといった国の動きにのっとり、市としても合同でやっていこうと進めてきている。(教委事務局)
- ・学童保育の制度に寄せる形で一体化を進めていく。(久喜市長)
- ・ふれあいは、緊急雇用対策の一環として始まった経緯がある。県全体としては終わった後、市で独自に残っている。(松本教育委員)
- ・ふれあいにも勤労者のお子さんがあるケースもある。(教委事務局)
- ・現実的な話として、クラス 25 人のうち 24 人がふれあい等に行っているといったケースもあると聞く。見直しも必要。(高野教育委員)
- ・再来年を目途に、新・学童保育の制度に一本化するのが目標。そのための試行を進めている。市独自に進化したふれあいを精査するとともに、新・学童保育については、県の補助金を有効に活用できるようにしていきたい。(倉澤教育長)
- ・この方向で、合同保育のチャレンジを進めていきたい。(久喜市長)

(2) 学力テストの結果について

- ・資料 2 について教育委員会事務局次長から説明。
- ・昨年度までは、主に知識を問う A 問題と、主に活用能力を問う B 問題とがあった。今年度は AB が統合された。また、「英語(話すこと)」の項目については、ICT 環境の整備状況の違い等を考慮し、調査の実施が任意となっている。調査結果については、都道府県単位は公表無し。全国の数字は参考値。(教委事務局)
- ・同世代の子どもでも個性は様々。できた喜びが、さらに挑戦しようという意欲を生む。学力テストを自分伸ばしのツールとして使うのが、本当の意味での学力向上につながるのではないか。一つ気になるのは

各校の結果が公表されていないこと（※平成30年度分については既に市教委ウェブサイトで公表済、令和元年度分についても12月下旬に公表予定。本当に必要な情報なら、わかりやすく伝えることが必要だと思う。（浅見教育委員）

- 郷土愛は大事だと思う。郷土愛を学校等で教えてもらうのはありがたいが、伝統文化についても受け身で学んでいる子どもが少なくない。家庭でできることもあるはず。勉強も、子どもの心を育てることも、小さなことをコツコツと重ねていくことが大事だと思う。（浅見教育委員）
- 学力調査のアプローチとして過去問の対策がされているが少し疑問に思う。生き方は多種多様で、大学入試を頂点とした見方は時代おくれだと思う。自分でどう生きるかを考えるかが重要。考える力は、学校だけでなく家庭でも養われる。子どもたちに学ぶことの楽しさを知ってもらおう。子どもが自分から学びたいという気持ちを尊重したい。大人の背中を見て、子は育つ。大人も謙虚な姿勢で学ばないとならないと思う。（浅見教育委員）
- 子育ての中に教育の原点があると思う。子どもは自らチャレンジして成長していく。学校は、子どもの学びたいという心に火をつけることが大事。自己肯定感を高めること、自信を付けること、成功体験を積み重ねることが大事だと思う。（教委事務局）
- 学力テストは、国が求める学力のあり方。教師自らも解いて欲しいと伝えている。過去問を通してというより、日々の授業の中で力を付けていくことが望ましい。ラグビーW杯に向け選手が練習したように、問題に慣れさせるための過去問も大事だ。（教委事務局）
- データを見ると、県や全国と比較をしても仕様がなと思う。昨年より良くなっているのは素晴らしい。今年の子どもたちは良く頑張っているという印象を受けた。子どもたちは、国語・英語・算数は、家では勉強をやらない。学校でしっかり教えるよう、先生方が教え方を工夫すると良いと思う。インターネットでも色々見ることができる。全ての先生方が自分で工夫する気を起こさせるようなものがあると良い。（松本教育委員）
- 学力って何だろうと考えると、本来の学力は、浅見委員が言うような様々な側面からなるものだと思う。学力に関する考え方は、時代とともに変化する。今の時代は、アクティブラーニングやプログラミング的思考とかが求められるのだろう。（高野教育委員）
- 日々の授業を、当たり前のことを当たり前にできるのが大事。教員の多忙化が課題になっている。教材研究の時間を確保したい。補助員の配置も進めたい。働き方改革も進める。様々な雑務が学校に入ってくる

るため、負担が大きいのが現状。(倉澤教育長)

- ・国語が県平均を上回っているのは凄いなと思う。だが、プラスマイナスで一喜一憂しなくても良いと思う。いつも私が言っているように、学力を付ける過程は孤独な作業であると思う。そういう意味では、市長がよく指摘する通り、予習と復習が大事だ。その大切さを伝えることも大事だ。(増田教育委員)
- ・100人いれば、100通りの学力論がある。学力テストは、全国における立ち位置を確認できるものだと考えている。今年の子どもたちがどうだったではなく、安定したものになるのが良い。(倉澤教育長)
- ・良い結果が出たことには喜んで良いと思う。基礎学力の向上を通して、考える力も養うことができるよう、学校の先生も工夫するのが理想。教員の多忙な状況は課題。やる気のある方が大半なので、スキルアップにつなげられるよう、働き方改革も進めていきたい。(久喜市長)
- ・英語教育は、多様性という観点から重視している。世界に目を向けてほしい。「読み書きそろばん英語」である。時代に後れを取らないようにしていきたい。(久喜市長)

(傍聴者 退室)

○その他

- ・教育現場の働き方改革、郷土学習、英語教育などについて情報交換。

以上